童

2015年４月２８日.

残雪で白と濃紺のまだら模様の志賀高原の山並み。これをバックに、タンポポの咲く緑の芝生の上に鯉のぼりが風に乗って泳いでいます。スロープに寝ころびながら、時にはののはな文庫のベランダから、みずぐるまの２階から、この光景は、まさに１枚の絵画か、それとも舞台の一場面を見ているようです。１年中で、一番ほのぼのとして、大地の里山を感じる美しい季節の到来です。新学期、新年度の慌ただしさの中にあっても、この光景は、ふと足を止めさせ、心身へ安らぎを与えてくれ、気持ちを落ち着けてくれます。

さて、新学期が始まり、４月が過ぎ去ろうとしています。この美しい絵画の中に、新しい子ども達、一回り大きくなった子ども達が、連日描かれていました。特に、慣らし保育１週間は、お天気も何とか持ち続け、ずっと外で遊んでいました。開園して以来の大地伝統のずっと外で過ごし続ける慣らし保育。大地は楽しい所だと期待いっぱいで胸を膨らませてきた**自然の一員（子どもの６つの特質の一つ）**子どもたちにとっては、束縛されることなく、大きく受け入れてくれる大地の自然は、不安や寂しさを軽減してくれ、気持ちを穏やかにしてくれる、母親のような優しさを醸し出してくれるものです。そのお蔭で、この４月も、穏やかににこやかな毎日を過ごすことができました。この最初のインパクト、印象付けを大切に、鯉のぼりのように、大地の四季の風を受けながら、自由自在に風に対応して、躍動感あふれる大地での成長を応援していきたいと願っています。

この「童」は、保育教育を論じたり、大地の子どもたちの今を伝えたりする紙面ではなく、青ちゃん個人の日頃の雑感や家族の事、個人的趣味特技、のめり込んでいること、危機的な事（あってほしくない、でも必要な怪我や事故からの学び！！）、そんな自分の暮らしの綴りごとですので、スロープで寝ころんで、暇つぶしに目を通して頂ければ幸いです。

【かんてんぱぱ】

青山家末っ子の高校野球最後の年。子どもとがちで過ごすことができる人生のラストチャンス。それだけに、最優先でいつでもどこへでも野球観戦に出かけている夫婦。県内はもちろん、お隣富山でも新潟でも、朝早くからバックネット裏に座っている２人。「あっ！！また来ている」を越えて、もう当たり前の光景だと、本人もチームメイトも監督もあきれ返って見ていることでしょう。宿泊して連戦になる時などは、こちらもやったとばかりに、夫婦旅行だと盛り上がります。そんな中、先日、長野県の南信地方、伊那へ泊まりで行って来ました。大地ＯＢも伊那にいらっしゃり、お母さんはお話、息子は野球と同じような暮らしをしてきているので、グランドで再会して盛り上がりました。２歳下の卒業生で、今年から高校野球を始めたので、この５月の練習試合は、その高校と組まれているので、またまた再会が楽しみです。

この伊那へ出掛けた時、ちょっと時間があったので、「いい会社を作りましょう」「年輪経営」などで有名な伊那食品工業のかんてんぱぱガーデンを訪れてみました。「２０年間、会社が嫌で退社した人間はゼロ」という事に魅力を感じていたからです。

社長（現会長）の塚越さんは著書の中でこう述べていました。「若者は海外を目指せ！！」「自ら起業し、経営者になるべき」「海外で勝負できる実力をつけるべき」など、最近は声高に唱えられ、そういった価値観をどこか全員に強いているような昨今。でもそれができるのはごく一握りで、みんなができるわけでない。特別優秀な人がリーダーとしてやっていけばよく、普通の庶民は、安定していることが幸せ。安定して、安心して、人生を送る、ささやかでも小さいと言われても、皆、家庭内の幸せを求めるものなのです。それの何がいけないのでしょうか。人は、幸せな人生を送るために生きているのであり、会社を存続させるために生きているのではありません、と。

これを読んだとき、自分も家族や友人たちに、「やはり、海外を見ないと」とか「大好きな事で起業した方がいい」などと、簡単に口にしていた自分に気づきました。会社員やサラリーマンはつまらないなどと思う自分に恥じりました。そんな思いがあって、かんてんぱぱを訪れました。　「２０年間、会社が嫌で退社した人間はゼロ」という神髄を感じたかったからです。

本当に会社環境は美しかったです。建物がモダンだとか設計が凝っているという事ではなく、樹木、庭が良く手入れされており、建物の裏など見えないところまで整理整頓されていました。これらは、プロの清掃業者に下請で出しているのではなく、社員の方々が毎朝、そして日頃から、自分たちで維持管理しているということです。接客やスタッフの笑顔も素晴らしかったです。中小企業でもどんな会社でも、資本や経費をかけないで成長することのためにできることは３つ。「丁寧な言葉使い」「丁寧なあいさつ」「掃除」。まさにそれらを十分感じ、そして、自分の在り方を恥じた瞬間でもありました。まさに、著書で読んだ通りでした。そして、見事にその哲学が実践されていました。

自分たちが学び、自分たちで考え、自らが実践していくこと。それが、自分たちの足元である暮らしから始まり実践していく。それも普段の掃除や挨拶から。そして、その延長で、会社の工作機械や設備まで考え作っている事。これが本当に魅力的でした。そして、すぐに影響され、熱くなる自分。伊那からの帰り道、ああしよう、こうしようと次々に思い浮かべ、そして、あれはまずかった、恥ずかしかった　等と恥じる自分と、様々に交錯する自分がいました。

そして迎えた新年度。軽トラ５台分を超える不燃物や不用品が大地から湧き出ました。３、４年前から、外環境を美しくしようと取組み、花壇や樹木などもそれなりに手を入れてきましたが、見えない部分や大地の建物の裏側などは、まだまだでした。倉庫や大地の裏なども手を入れた結果でした。３月の父親作業日で、はがれかけた屋根などを修繕して頂いたお蔭で美しくなり、その延長で、他の場所の屋根を綺麗にしました。同じく、昨年、裏の雑木林、通称「魔女の森」の整備を行い、美しい森になり始めました。今冬は、重い雪がたくさん降り、大地だけではなく、あちこちの森は、倒木や枝折れが多く見受けられます。魔女の森や大地の散歩道も、倒木や枝折れが多く発生しています。

魔女の森は、新学期早々の働き者の子どもたちのお蔭で、見事に美しくなりました。ここで、森林の美しさ、森林整備のおもしろさを知ってしまったので、次は、大地の一番子どもたちが散歩する林の整備に取りかかっています。地主さんの了解も取れたので、子ども達と共に連日少しずつ手を入れ、明日の森の親睦パーティでも、皆様のお力をお願いしたいと思っています。

プロの専門業者に任せて洗練されたものを目指すのではなく、大地は、子どもたちや素人集団が、想いをこめて自ら考え、汗を流して実践し、垢抜けした都会的ではなくても、ささやかでも素朴は美しさを目指したいと思っています。ヨーロッパなどの街並み、家々には、そこに住む人たちの思い入れと手間暇を感じ取ることができます。

「ささやかでも小さい美しさ」掃除と共に、言葉づかい　挨拶　も努力していきたいと思います。

最後に、かんてんぱぱに影響されて、同じく取り入れて継続していることが一つあります。大地駐車場までの道路を毎朝、スタッフが綺麗に竹ぼうきで掃いていることです。年々、アスファルトが輝いていくのがわかります。